

ひだまり



2020. 3. 13
山田中学校
3年生 学年通信

卒業おめでとう！

枚方市立山田中学校第37回卒業式。君たちの晴れ舞台である卒業式が今日終わりました。3年間の中学校生活はどうでしたか？たくさんの思い出とともに君たちは新たな一歩を踏み出します。君たちは太陽のように明るく大らかな生徒でした。3年生のひだまりを作ったのはまさに君たち一人一人の言葉や行動だったように思います。進学先でも君達らしく周りを照らす太陽のような存在でいてください。

そして、自分の意志で正しい判断のできる大人になれるよう努力してくださいね。君たちはこれから人生の中で決断をしなければならぬ場面に何度も遭遇します。その時後悔のないようにね。



3年間皆勤賞！

3年間1度も休まず登校したみなさん！よく頑張りました！

(学級閉鎖、出停、忌引きは含みません。)

3年1組

秋元・大内・尾崎・亀井・瀬見・出原・西川
原・三輪

3年2組

尾崎・清田・篠原・背川・西川・深堀・楨原
山本・脇坂

3年3組

木藤・日下部・諏訪・東畑・藤田・藤本
榎原・森田



あたたかな日差しの中、いよいよ卒業、巣立ちの 때가近づいてきましたね。多くのあなたたちとは、1年間のご縁でした。

すばらしい歌声、あつくなった気持ち、ありがとうございました。
ひとひひとひ自分の信じる道を力強く歩んでください。Fight!!

中村 淳子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。15の春を迎え、新たな道を踏み出すみなさんに、ここしばらくの日本や世界の情勢は少々きつく、不安なものかもしれません。物事はすべて無常です。どんどん変化していくことでしょう。みなさん自身も変化していきます。どうぞ、あわてずに、穏やかに前進してください。自分を信じるためには、信じるに足る何かに出会うためには、学びが必要です。新しいことを知る勇氣、考え続けることをこれからも大切にしてください。

先の戦争で強制収容所を生き延びた詩人の石原吉郎さんがいます。彼が一人一枚しか配給されない毛布で、シベリアの冬の極寒を乗り切るにはどうしたかを記しています。それは日中は奪い合う様に食べ物を分けた相手と二人一組になり、一枚を床に敷き、一枚を上を掛けて、かたく背中を押しつけあって眠ることでした。

自分が生きるために食べ物を奪い合う相手と、眠る時は協力し合わない、次の朝を迎えることができなかつたのです。

私たち人間は誰も一人では生きていけません。考え方や、習慣の異なる人や国と共に生きて行くことの厳しさと、覚悟をこの話は教えてくれます。

これからの地球や世界を生きるためのヒントにもなるかと思います。記憶のどこかにとどめてもらえると、うれしいです。

そして何よりも、笑うこと、歩くこと、話すこと、考えること、食べること、迷うこと、歌うこと、恋することなど、どうぞ、あたりまえの日々の、あたりまえの事を大切にしていって下さい。

みなさんのこれからの日々が、豊かでありますように！心から願っています。

中 由紀子

保護者の皆様へ

この3年間、保護者の方に救われることが多々あり、支えて頂いた事とても感謝しています。3年生は優しく大らかな生徒たちが多く、私達教員にもいつも元気を与えてくれました。そんなふうにご家庭で生徒達が接してくれるのは、ご家庭で保護者の方が丁寧に子供たちに関わってくださっているからだと感じていました。本当にありがとうございました。

3年生のみんなが4月に良いスタートをきれるよう心より願っています。